

NASUSHIOBARA Newsletter

広報なすしおばら

12 / 5

December 2019 No.359



特集

地域共生社会の
実現を目指して

特集 地域共生社会の実現を目指して

地域や家庭の支え合う力が弱体化する中、安心した暮らしを送るためには何が必要でしょうか。「自らの役割がある」「互いに認め合い、支え合う」「その人らしい生活が送れる」。そんな地域共生社会の実現が求められています。

地域共生とは…

隣近所には誰がいて、どこに勤めていて、どの学校に行っている…。昭和のころまでは、自然と顔の見える関係があり、地域や家族同士で助け合って暮らしていました。今は隣近所の関係性も薄れ、さらに少子高齢化により、地域や家庭の支え合う力が弱まっていると言われています。しかし、人は決して一人では生きられず、互いに助け合いながら人生を歩んでいきます。その道中では、病気を患ってしまったり、失業して生活に困ったり、また、被災してしまふこともあるかもしれません。そのような困難に直面しても、孤立せずにその人らしく生活できる「地域共生社会」が望まれています。

「地域共生社会」とは、地域の人や団体・企業が世代や分野を越えてつながること、一人一人の暮らしと生きがいや尊重され、そして地域をみんなで一緒につくる社会のこと。そのような社会を目指すため、市内でもいろいろな取り組みが始まっています。「地域の絆を強くしたい」「お互いの理解を深めたい」。今回の特集では、そんな地域共生の取り組みを紹介していきます。



ケアタウン安暮里
(地域包括支援センターあぐり)
池澤 守 センター長

参加者のつながりが地域のキズナ

地域の高齢者福祉の総合窓口を担っているケアタウン安暮里。福祉関係者と地域住民が話し合う「だいじだねット会議」を開催しています。ケアタウン安暮里のセンター長・池澤守さんに現状と課題を聞きました。

地域住民や社会福祉協議会、ケアマネージャーなどの福祉の専門職が月に一回とようら公民館に集まる。会議では、地域で実際に起こった事例を共有したり、対策を協議したり…。参加者はもともと高齢者支援の専門職だけだったが、今年から住民も加わり、会議の名前も「だいじだねット会議」に改めた。「地域の人に参加してもらいたい」。できるだけ専門用語を使わず、分かりやすくするように心がけているという。

とちぎの方言としてもよく使われる「だいじ」。意味は「重要」ではなく「大丈夫」。まさしくこれが、この会議の名前の由来だ。「誰もが」一緒に「自分たちのことだ」と思って考えれば「大丈夫だ」。会議の前に必ず「だいじだ」に込めた思いを紹介するのが習わしである。

池澤さんは「地域の人と話をする」と、「よくよく（ひどい状態）になったら池澤さんに連絡するよ」と言われるのですが、よくよくになってからはダメなんですすね。だから、ちよっとでも気になることがあった

キーワードは「だ・い・じ」

ら相談するよう呼びかけています」と話す。

つながる地域を目指して

「参加者がつながり、地域の助け合いの輪が広がれば良い」と語る池澤さんだが、その背景にあるのは、近年増えている孤独死の問題。一人で最期を迎え、発見までに2週間以上も経過してしまったという事例も。「地域、デイサービス、ボランティアなどが関わることで、少しでも悲しい死を防げるかもしれない」と語り、「日ごろから気にかける関係ができること。それが万が一の時にとても役に立つんです」と教えてくれた。地域がつながり、声を掛け合うことで、結果的に災害にも強い地域になるという。

「今はいかに高齢者を福祉に結び付けるかで精一杯」と話す池澤さん。一方で、地域では高齢者に限らず、生活困窮者や障害者、子育て世代など多様な人が助けを求めている。「これからは、高齢者だけでなく、それらの人も含めた支援が必要」と話し、「いずれはその役割を地域の中で果たしていかなければならないと感じている」と今後の使命を述べた。



地域の架け橋 つながるココロ

地域の人の悩みや困りごとの相談に乗り、行政や福祉施設などにつなぐパイプ役として活躍する民生委員(※)。今回、民生委員として18年に渡り活動する渡邊さんに話を伺いました。

※民生委員…任期は3年で、児童委員も兼ねている。今年の12月に委嘱された市内の民生委員は199人。



塩原地区民生委員・児童委員協議会
渡邊 千恵子 会長

地域に寄り添い18年

18年前に旧塩原町の福祉課の職員から声を掛けられて民生委員になったという渡邊さん。地域で困っている人の声に耳を傾けたり、時に一人暮らしの高齢者宅などを訪問して相談を受けたりしては、行政へつないできた。「気軽に引き受けたのだけども、まさかここまで続けることになるとは」と感慨深い表情を見せながらも、「本当にあつという間。支えてくれた家族には感謝ですね」と長年の活動を振り返った。

渡邊さんは、この18年間に先任、

の委員だけでなく、多くの後任が辞めていくのを見送ってきた。「正直、大変なことも多いので、一緒に辞めたいなと思うこともありましたが」と正直な胸のうちを教えてくださいました。

新任の頃は、高齢者宅を訪問しても「知らない人」だと言って顔も出してもらえず、悩んだこともあった。それでも根気強く訪問して、何とか顔を覚えてもらい、世間話ができるようになったそう。また、早朝や真夜中に電話がかかってくることもしばしば。「具合が悪いので病院に連れて行ってほしい」と相談されたことや、「自宅の一階まで下りられ、

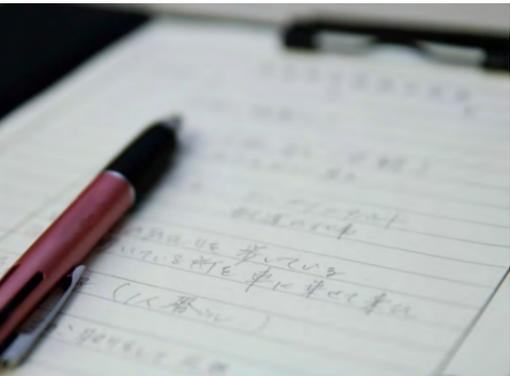
なくなった」というので2階から背負って下ろしたなんてことも。

地域の人のさまざまな困りごとに寄り添い、時に悩みながらも持ち前の明るさを武器に活動してきた渡邊さん。「大変なこともたくさんあったけれど、『渡邊さんがいてくれてよかった』と言われるのが一番うれしい」とやりがいを感じ、「できる限りは続けたいと思う。地域のために何かできるのがうれしいんです」と笑顔を見せてくれた。

子育て支援も大切な要素

民生委員は、児童委員も兼ねてい

るため、子どもの虐待の未然防止に取り組んでいる。近年は子どもに関する研修も多くなり、市内で子育て支援の活動を行っている団体へ話を聞きにも行ったそう。ひとり親、特に母親と子どもとの場合は、母親のケアが重要で、うまくケアできれば、親子を引き離さずに済むこともあるという。「支援することで親子が仲良く暮らせるようになったときには『本当によかった』と思います」とこやかに話し、「塩原は子どもが少ないですが、今後も子どもに関する研修や取り組みに力を入れていきたいですね」と抱負を語ってくれた。



渡邊さんが記録しているノート

「最近の様子はどう?」「この前、友達を生きがいサロンに誘ってみたよ」といった世間話にも花が咲く。そうした何気ない会話からも、心配な人の情報や気になることなどの重要なメッセージが届くことも。地域での声かけや見回り際にはメモを取り、常にアンテナを高く張って活動している。



何でも話せることが一番うれしい

大塚 八重子 さん

家に来てくれたときだけでなく、生きがいサロンなどでばったり会ってもたくさん話をしますね。何でも話せるので、不安なことや近所で気にかけている人の話、世間話など聞いてもらっています。時間を忘れてついつい長話になってしまったりもして。

家に一人にいるときに、脳梗塞になったらと考えたり、急に心臓が痛くなったりすると不安になります。ご近所さんや民生委員さんには、「家のそばに来た時はお茶飲みついでに様子を見に来てね!」と言っています。不安も多いのですが、近所の人や民生委員さんとたくさん話ができるので、安心して暮らせています。

参加が知る

への第一歩

支援が必要な人たちは身近にいるものの、交流のきっかけがなく、支援の仕方がわからない…。互いを知り、認め合うことで助け合いの輪を広げようとイベントが催されています。まずは参加することから始めてみませんか。



1

とも RUN伴 栃木2019

認知症の人と接点がなかった地域の人々と、認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスキをつなぐ。それを通じて、喜びや達成感を共有することで、認知症の人も地域で伴(とも)に暮らす大切な隣人であることを知ってほしい。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに県内の18市町で開催された「RUN伴栃木2019」。本市では、大田原市と合同で「認知症とともに安心して暮らせる未来へ」がテーマに掲げられ、76人の手によってタスキがゴールまでしっかりつながった。



2



3 1 出発前に参加者やボランティアなど全員でニコリ！ オレンジ色がまぶしい瞬間 2 休憩ポイントで手を振ってランナーを迎える応援団 3 お手製の応援ボードで元気付ける 4 ランナーの名前が書かれたタスキを次の走者へリレー



4

私たちの周りで暮らす高齢者や障害者、認知症の人。近所に住んでいても、施設があってもその人に気付かないことも。交流がないため互いを知らず、マイナスのイメージが持たれてしまいがちです。しかし、互いを知り、ただで、災害時に早い手助けができたり、街で困っている人に救いの手を差し伸べられたりと、「知る」ことは「共生」の第一歩。「知る」そして理解することで互いを認め合えます。それが「安心した暮らし」につながるのです。市内でも、交流を通して互いを知り、理解を深め合う機会を作ろうと、さまざまな催しが行われています。参加するだけで、今までのイメージが大きく変わったり、新たな発見があったり。高齢者も障害者も認知症の人、大人も子どももみくんなが、助け合い励まし合って「共に生きる」社会。その第一歩として、まずは催しに参加してはいかがでしょうか。

第39回 ふれあい広場

互いを理解し合い、仲間となれる「ふれあい広場」。毎年9月の第4土曜日に開催されている。今年も那珂川河畔公園で行われ、39回目を迎えた。会場には、福祉団体の手作り品が並ぶ模擬店や、手話や織織りの体験ブースが軒を連ね、ときに行列ができるほどのにぎわいとなった。ステージではフォークダンスや盆踊りなどが披露され、来場者も一緒になって踊る場面も。

ハンディキャップや年齢に関わらず、多くの人々が互いを励まし合いながらこのイベントを一緒に楽しんだ。



1



2



3

1 手話体験ができる手話サークルのブース。来場した女の子に「ありがとう」と手話で話しかける 2 心を込めて作ったクッキーはいかがですか 3 黒磯中学校のボランティアクラブの皆さんもお手伝い

障害福祉サービス事業所共同販売会

ふれあいマルシェ

～ハートでつなごう♡～

障害福祉サービス事業所でさまざまな製品を日々作っている障害のある仲間たち。彼らが心を込めて作ったパン・クッキー・手芸品・野菜などが所狭しと並びます。

Check!

- ▶ とき 毎月第1火曜 正午～午後1時
- ▶ ところ 市役所本庁舎1階通路
- ▶ 参加団体 ふれあいの森、つくし、心の里、喫茶店ホリデー、ワークス共育、セルフあじさい、ぶらねっと、ファーマニーテトテ、あみすた園
- ▶ 問い合わせ ☎社会福祉課 ☎0287(62)7026

自ら売り場に立ち、お客を呼び込むなど、毎回活気のある交流が行われている。





宮町自治会の会議風景。みんな真剣なまなざし。

宮町自治会 助け合いの会



この地域で
孤独死を出さない——

宮町自治会
三森 薫 会長

平成28年3月、前々自治会長が始めたのをきっかけに年2回必ず会議を開いています。自治会長、班長、民生委員のほか、地域包括支援センターや地域の障害福祉を担うNPO法人も手伝ってくれています。

地域の課題はやはり高齢化。若い人がいないわけではありませんが、高齢者同士が互いに助け合う体制を作っています。今年9月には、配慮が必要な人をどのように助けていけるか、会議を開きました。その中では、参加者からの情報提供で「気付き」が生まれ、実際に専門機関へつなぎ、問題に対処できた事例もあります。地域支え合い推進員の支援をこれからも受けながら、地域での助け合いを広げたいです。

畑下自治会 地域住民助け合いの会

負担にならず
できる範囲で——



君島 恵子 さん

平成28年2月の発足から3年半が過ぎ、地域に定着してきたかなと感じています。

年2回の会議には、誰でも出席できるよう回覧でお知らせをして、毎回10~15人くらい集まってくれています。見守りの地図を広げて情報交換する中でいろいろな話が出てきます。地域の危険箇所や、地域の人々の近況が分かり、とてもいい機会となっています。

この地域も子どもが少なくなり、高齢者が増え、住民が減ってきたことが課題。でも、畑下はやるとなったら積極的にやる地域です。今後もみんなができる範囲で、元気に助け合って、この活動を続けていきたいと思っています。



畑下自治会で作成している見守りマップ。会議のたびに内容を追加し、地図に落とし込む。



見守りでつなぐ

地域の顔と顔

高齢化が進み地域の人口が減る中、高齢者の「見守り」に取り組む地域があります。地域で、みんなで支え合うために必要なものは？ 塩原地区と黒磯地区にある二つの自治会を取材しました。

秘訣は「ながら見守り」

地域の中に高齢者が増え続けている今、その人たちが安心して暮らすために高齢者の見守りに取り組む自治会があります。塩原温泉街にある「畑下自治会 地域住民助け合いの会」と、黒磯駅前の「宮町自治会 助け合いの会」。どちらも歴史ある地域で、昔はたくさん人が住んでいました。しかし、今では少子高齢化による人口減少が進み、地域に住む人の半数近くが高齢者となっています。

見守りを行うのは、自治会の役員だけではなく、地域の人たちや団体、事業所など多岐にわたります。見守りと言っても、定期的な訪問するのではなく、回覧板を置きに行きながら、家の前を通りながらの「ながら

ら見守り」。見守りをする側もされる側も無理をせずに続けられているといえます。

地域支え合い推進員とともに

両自治会とも、社会福祉協議会が公設公民館に配置する「地域支え合い推進員」と一緒に活動しています。地域支え合い推進員とは、見守り活動や高齢者の居場所づくりが円滑に進むよう支援する地域のパートナーのことで、来年1月には全ての公民館に配置が完了する予定です。

見守り活動など困ったことがあれば、公民館の推進員へ相談が可能で、地域の課題を共に考え、解決に向けて力を貸してくれます。この心強い味方とともに、みんなで地域共生に向けて前進してみませんか。

参加しませんか

地域共生社会 シンポジウム

市民一人一人が主役となり活動していくために、地域共生社会シンポジウムを開催します。先進地の事例などが聞けるチャンスです。「地域の誰もが安心して暮らせる社会」の実現のために、自分たちができることは何かを一緒に考えてみませんか。

▶とき 2月8日(土) 午後1時30分~

▶ところ 三島ホール

▶内容 ①先進地事例発表
(栃木市岩舟地域住民会議代表)
②パネルディスカッション

▶問い合わせ 社会福祉課
☎0287(62)7031

那須塩原駅周辺 まちづくりビジョン 現状×対策

10月28日に開催された第2回那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議。那須塩原駅周辺について、広域的な視点から具体的な提案まで幅広い視点から議論が行われました。

▶問い合わせ
企画政策課 ☎0287(62)9254



亜細亜大学都市創造学部長
松岡 拓公雄 氏

宇都宮共和国副学長
山島 哲夫 氏

筑波大学名誉教授
小場瀬 令二 氏

那須塩原市長
渡辺 美知太郎 氏

県北地域や那須野が原など広域における那須塩原の位置付けは——

山島…広域で考える場合、市民と観光客の双方の視点が必要です。那須塩原駅周辺は市民には自然体で集まれる地域になりうるし、観光客には表玄関、交通の結節点となります。

松岡…この地域には素晴らしい資源があるので、どう活用するかが重要です。黒磯と西那須野の間に新幹線駅がありますが、そこに新しいものを作り、無理やり結び付ける必要もないでしょう。むしろ黒磯と西那須野の特色を生かしつつも、那須塩原駅周辺で交流できる場所を設け、観光の顔となれば良いと思います。

市長…人が集まるイベントを行うのも、那須塩原駅が適地ではないでしょうか。物理的な中心地はともかく、駅前を市民のアイデンティティの中心地として考えていかなければならないと感じます。

小場瀬…交通の要という観点では、広域的には那須塩原駅が中心です。車社会ですので、市民はもちろん、観光客もマイカーを利用す

松岡…駅周辺の土地の活用方法も重要なテーマです。山並みが綺麗なので、那須塩原の顔として見てもらえるかが肝心です。

小場瀬…駅前広場を再整備して大きな緑地を確保するのは面的には可能です。大分駅なども駅前に大きな緑地帯があり、そこでイベントを開催し、観光客を迎え入れる表玄関として機能しています。通りに植林し、並木を育てるのも一つのアイデアでしょう。

松岡…自然の中に先進的な技術を活用し、スマホをかざすと情報が得られる仕掛けも考えられます。大きな案内は出さず、なるべく自然のままにしておくのが得策です。



亜細亜大学
都市創造学部長
松岡 拓公雄 氏
Takao Matsuoka

那須塩原の顔として、
周辺の景観とも調和を——



那須塩原市長
渡辺 美知太郎 氏
Michitaro Watanabe

る人が多いと思いますが、これから外国人観光客も増えるかもしれません。そうすると車ではなくてバスによる交通アクセスが重要となると予想されます。

市民のアイデンティティ
その中心を那須塩原駅前に——

山島…人口が少ない町では、コミュニティバスを走らせても利用されず、バスを定着させるのはなかなか難しいのが現状です。

松岡…全国的には高齢者対策として地域全体で送迎サービスをしたり、ボランティアが高齢者の運転代行をしたりしており、国土交通省もその活動を認めています。コミュニティバスの採算が合わないのは当然で、地域住民によるサポートを構築しなければ成り立ちません。それは那須塩原市でも同じではないでしょうか。



筑波大学名誉教授
小場瀬 令二 氏
Reiji Obase

市民が集う
シティホールを交流拠点に

山島…市庁舎は市民が集まる場所です。せっかく市庁舎が作られるので、さまざまなお祭りやイベントが開かれる場所となると良いですね。そうすれば、市庁舎の周りのスペースも利用できますし、市民の一体感も出ると思います。

小場瀬…市役所は英語ではシティホールで、市民が集まる場所を意味します。最近では駅前や商業施設に市役所機能の一部が設けられ、住民票の取得のために市庁舎へ行かずに済むようになってきました。その点では、市役所に最後に残るのは、市民ホールとして市民が交

市長…やはり公共交通は重要なテーマです。将来的には、政府が推進する自動運転を取り入れ、先進技術を活用したコンパクトシティも考えられると思います。

小場瀬…市民と観光客では交通ニーズが違いますが、先進技術を活用した広域交通は将来的に魅力ですね。

地域の表玄関としての駅周辺の今後の方向性とは——

山島…新幹線駅の表玄関としては寂しい印象です。とはいえ、多額の投資をして、ビルを建てるのは間違いだと思います。地域全体の情報が得られる「まちなか交流センターくるる」のような施設があるだけでも、雰囲気は変わるでしょう。

地域の玄関として
情報発信の拠点があれば——

宇都宮共和国副学長
山島 哲夫 氏
Tetsuo Yamashima



流する場という機能になるのだと思います。

松岡…市庁舎そのものは何年後をターゲットにするかが重要です。人口は減るので、職員の数も将来的にどれくらい必要かという議論も出てきます。将来をしっかりと見据え、市庁舎や広場のスペースを計画しなければなりません。また、市庁舎そのものは高層である必要はなく、景観にマッチした外観であるべきです。

山島…人口が減少しても、職員数は極端には減らないでしょう。将来的にスペースに余裕ができたから、会議室などを市民が集まれる場所などとして使うという対応も考えられます。確かに、市庁舎の高さは、一定に抑えておかないと景観とマッチしません。

市長…市庁舎単体でなく、那須野が原全体や、駅周辺との位置付けを考えながら議論を進める必要があります。駅と市庁舎をどのようにつなげるかなど、今日頂いた議論はしっかりと今後の検討材料にしていきたいと思います。

01

その功績をたたえて
市の発展に功績のあった74件を表彰



市の発展や市民福祉の向上などに功績のあった、74件の表彰を11月4日に行いました。

〔受賞者一覧〕（敬称略、順不同）

○地方自治

鈴木清子

○保健・衛生・環境

秋田滋夫、木平健、五味潤泰造、秋元清子、佐藤清美、塚田洋子、人見榮子、大久保忠且、遠藤孝一、片山栄助、黒羽壽雄、平野敏明、野中純

○産業

井上正利、小針勇、高松勝雄、福井道義、森アサノ

○消防・水防・防犯・交通安全

板場政綱、大野孝明、菊地鉄矢、鈴木剛、相馬武紀、高根沢幹、田代利光、時庭岳士、野沢順一、蓮實伸也、人見昭、深澤和人、福島敬史、星野岳史、安川正和、養田重伸、渡邊節雄、渡邊裕吉郎、秋保安洋、藺幡健二、木村和正、人見徹哉、藤田広行、松本繁征、渡邊晴彦、伊藤靖、白井呂爾、大貫幸夫、草薙隆光、渡邊賢一

○教育・文化・スポーツ

木平健、三本木忠二



○ボランティア活動

河合互、木佐美穂、小宮正美、鈴木美佐子、隅浩子、曾村文江、高瀬婦美子、竹井禎子、中山功子、花塚サチ子、人見榮子、平山江子、平山節子、渡邊秀子、山佐江子、千葉衣子、千葉保昌、江部学、千葉衣子、千葉保昌、中山威夫、中山逗子、山本哲也

○金品の寄附

江連宏行、岡部瑞穂、澁井昭彦

▼問い合わせ

○本秘書課

☎0287(62)7108

02

市スポーツ推進委員 粒来氏が
文部科学大臣表彰を受賞



市スポーツ推進委員として30年近く活躍されている粒来紀男さんが、第60回全国スポーツ推進委員研究協議会で、文部科学大臣表彰を受賞しました。粒来さんは、市スポーツ推進委員協議会の会長として、ニュースポーツの普及や地域スポーツの振興に努めてきました。受賞を受けて、粒来さんは「皆さんの支えや協力のおかげで受賞できました。感謝しています」と喜びを語ってくれました。

▼問い合わせ

○函スポーツ振興課 ☎0287(37)5439

04

「エールなすしおぼらく夢が動き出すまち」のロゴマーク決定



ブランドメッセージ「エールなすしおぼらく」夢が動き出すまち」のロゴマーク応募作品294点の中から最優秀作品1点が決まりました。最優秀賞は荒木崇さん（東京都）。

ロゴマークに込めた「頑張る人に送るエールが、夢に向かう力になり、みんなの夢が動き出す」というメッセージを今後いろいろな場面で発信していきます。

▼問い合わせ

○本シティプロモーション課

☎0287(62)7128

03

本市オリジナルデザインの
マンホールカードを配布します



最近全国的にブームとなっているマンホールカード。昨年10月に本市が設置した「みるひ」と「ハローキティ」のデザインマンホール蓋がカードとなって登場します。皆さんもぜひ入手してはいかがでしょうか。

▼配布場所 塩原もの語り館（塩原747）

☎0287(32)4000

▼配布開始日 12月14日（土）

※一人につき1枚を無料で配布します。

▼問い合わせ

○函下水道課 ☎0287(37)5110

05

障害馬術の全国大会で優勝した
廣田大和選手に市長特別賞を贈呈



8月に静岡県で行われた第43回全日本ジュニア障害馬術大会2019の2競技で優勝を果たした日新中2年の廣田大和さんに市長特別賞が贈呈されました。

父・龍馬さんと母・思乃さんに続き、親子で市長特別賞受賞の快挙を成し遂げた廣田大和さん。「今回の受賞は馬や支えてくれた人のおかげ。地元で開催される栃木国体でも優勝を目指して頑張りたい」と話してくれました。

▼問い合わせ

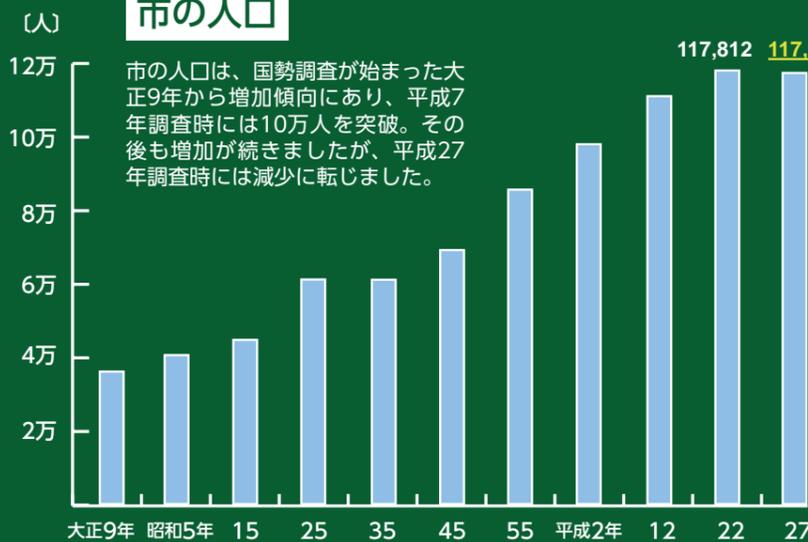
○本秘書課 ☎0287(62)7108

国勢調査データから読み解こう！

那須塩原を

国勢調査ではさまざまな統計データを得ることができますが、具体的にどんなデータがあるのか知っていますか？今回は、国勢調査の結果の中から代表的なものを紹介します。

市の人口



市の人口は、国勢調査が始まった大正9年から増加傾向にあり、平成7年調査時には10万人を突破。その後も増加が続きましたが、平成27年調査時には減少に転じました。

ここに注目！

平成22年調査時の人口117,812人と平成27年調査時の人口117,146人を比べると、666人減少しています。

【人口増減率】

ピーク時(昭和22年*)

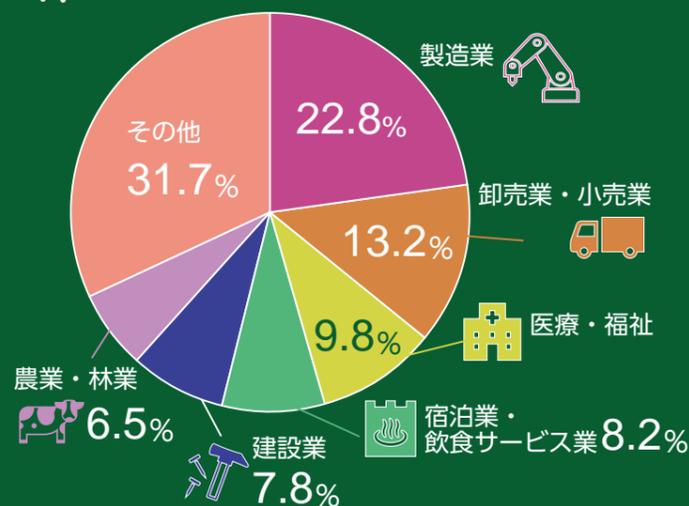
33.6%

直近(平成27年)

-0.6%

*昭和20年は国勢調査が中止され、昭和22年に臨時国勢調査が行われた。

市の産業別就業者



就業者を産業別にみると、製造業の割合が22.8%で最も高く、次いで卸売業・小売業、医療・福祉の順になっています。

市の世帯数



【1世帯あたりの人員】

平成7年 3.14人 → 平成27年 2.54人

核家族化の進行や単身世帯の増加により1世帯あたりの人員は減少しています。

開始から100年を迎える

令和2年国勢調査



調査員を募集します

令和2年10月1日を調査基準日として行われる国勢調査。令和になって初めての国勢調査は、新しい時代の現状を知るために、とても重要なものとなります。5年に一度行われる国勢調査の成功に欠かせないのが調査員の存在です。この国の未来のために、ぜひあなたの力を貸してください。



国勢調査って何？

国勢調査は、日本国内に住む全ての人と世帯が対象となる国を挙げての一大プロジェクトです。調査の結果から得られるデータは、さまざまな行政施策の基礎資料として利用されます。国勢調査は日本の未来をつくるために必要な大切な調査です。

どんな人がなれるの？

調査員に応募できるのは、原則20歳以上の人です。また、調査活動を通じて知り得た秘密は保護しなければならないことが法律で規定されています。そのため、秘密保護に関して信頼がおけ、責任や熱意をもって調査を行ってくれる人を募集しています。

どんなことをするの？

国勢調査員の仕事内容は、大きく5つです。業務期間は令和2年8月下旬から10月を予定しています。わずかではありますが、報酬も支給されます。



①説明会への参加

国勢調査員を対象とした説明会に参加します。開催時期は8月ごろを予定しています。



②担当地域の確認

担当になった地域を事前に確認します。担当地区は、市からお知らせします。



③調査説明・調査票などの配布

各世帯を訪問して調査の趣旨や内容を説明し、インターネットか紙の調査票での回答を依頼します。



④回答確認リーフレットの配布・調査票の回収

各世帯を訪問して回答確認リーフレットを配布します。また、紙の調査票で回答した世帯を訪問し、調査票を回収します。



⑤調査票の整理・提出

回収した調査票などを整理し、取りまとめます。必要書類が揃ったら、市へ提出します。

興味のある人は気軽に連絡を

統計調査は、国勢調査以外にもあります。興味のある人は気軽に問い合わせてください。

▶問い合わせ

市民協働推進課 ☎0287(62)7105



1 頼朝さんと政子さんに先導されて、大将鍋がいざ出陣！ 2 仮装も見どころの巻狩踊り。練習の成果は発揮できたかな？ 3 巻狩鍋のいい香りが会場を包む 4 会場内に響き渡る迫力満点の巻狩太鼓 5 気合十分にエイエイオー！ 子どもから大人まで楽しんで巻狩ショー 6 憧れの新幹線にみんなで乗って出発進行！ 7 あちらこちらで家族団らんのひととき 8 多くの人でにぎわう会場は、威勢のいい掛け声と笑顔があふれた



那須野巻狩まつり 今年も大盛況！

10月26日と27日に開催された本市最大級のイベント「那須野巻狩まつり」。源頼朝公が那須野が原で行った巻狩にちなんで名付けられたもので、両日合わせて約8万人もの来場者でにぎわいました。

那須塩原駅西口駅前広場を歩行者天国にして行われた26日の出陣式では、よさこい踊りや鼓笛隊、子どもみこしパレードなどに地元の子どもたちが参加。直径2・2mの大將鍋を乗せた山車が駅前通りをパレードし、にぎわう会場をさらなる熱気が包み込みました。

翌日の那珂川河畔運動公園では、大将鍋をはじめ計10個の巻狩鍋が並ぶ庄巻の光景が。漂う香りに誘われて鍋を求める人たちが長蛇の列をなしました。また、参加者がそれぞれ趣向を凝らした巻狩踊りや巻狩太鼓の勇壮な響演、ハローキティが駆け付けた巻狩ショーなど、子どもから大人まで楽しめるイベントが目白押し。お笑い芸人カミナリのお笑いライブ中には、一瞬本物の雷が鳴るおまけも。

本市の伝統行事とも言えるこの祭りには、今年も多くの笑顔があふれていました。

とちぎ結婚支援センター那須塩原

素敵な出会いをあなたへ



とちぎ結婚支援センター那須塩原は、結婚を希望する皆さんのポジティブな婚活につながるよう、新たな出会いの機会を提供しています。結婚を真剣に考えている人は、ぜひ利用してみませんか。

結婚の相談は市役所本庁舎5階へ
とちぎ結婚支援センター那須塩原

結婚相談員が常駐し、入会受付や相談に応じます。とちぎ結婚支援センター全体では、男性1,360人、女性826人が会員登録しており、これまでに55組が結婚、1,323組が交際に至っています。

- ▶開所日 月～金曜 ※土・日曜、祝日、年末年始、第2・4金曜は休み。
- ▶開所時間 午前9時～午後4時
- ▶ところ 市役所本庁舎5階
- ▶問い合わせ とちぎ結婚支援センター 那須塩原 ☎0287(74)2004



↑個人ブースなのでプライバシーも守られて安心です。

会員になれるのは？

県民か県内勤務者で、結婚を希望し自ら努力する20歳以上の独身男女 ※県外在住でも結婚後、県内に移住できる人は対象。

費用は？

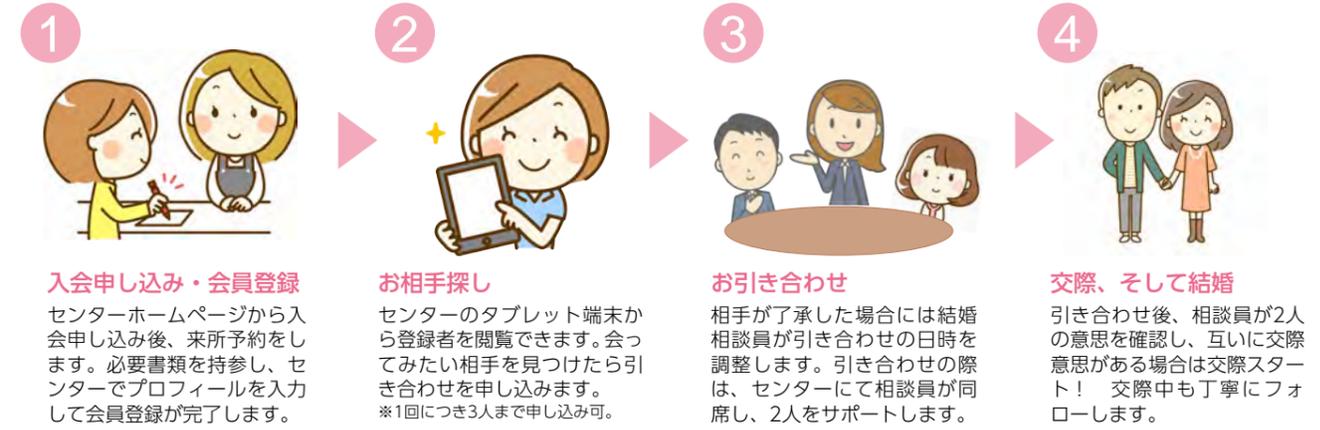
入会登録料1万円(登録期間は2年間) ※引き合わせ時や成婚時に追加の支払いはありません。

詳細は…

とちぎ結婚支援センターホームページで確認→



入会後の流れは？



RADIO BERRY カップリングパーティ in 那須塩原

▶とき 2月9日(日) 午後1時～5時 ▶ところ プラトリーナ(島方623-1)

▶対象 25～45歳の独身男女 ※男性は市民または市内勤務者。

▶参加費 男性4,000円、女性2,000円(ドリンク・スイーツビュッフェ込み)

▶定員 男女各20人 ※定員を超えた場合は抽選。

▶申込期間 12月16日(月)～1月26日(日)

▶申込方法 RADIO BERRYホームページから申し込み

▶問い合わせ RADIO BERRY 那須塩原カップリングパーティ係 ☎028(638)7640 ※平日午前10時～午後5時のみ。



まちの未来をみんなで考えてみよう ～みちたろうTOわくわくトーク～

11月9日になすしおばらまなび博覧会と同日開催で行われた、みちたろうTOわくわくトーク(高校生との意見交換会)。今回初めて開催されたこのイベントでは、「若者が将来このまちに帰ってきたいと思うために必要なものはなにか」というテーマで市長と高校生によるワークショップが行われました。高校生からは「音楽ライブができる場所」「インスタ映えるもの」など、若者視点のアイデアが数多く出されました。



1 高校生からの質問に答える市長。高校生も真剣な表情で聞き入る 2 副市長もグループに入り、高校生と意見を出し合った 3 ユーモアあふれる発表で、会場は大いに盛り上がった 4 この日は市内4校23人の高校生が参加



子どもも大人も一緒に楽しく学ぼう！ ～なすしおばらまなび博覧会～

周囲の木々が色づき始めた宇都宮共和国那須キャンパスで、11月9、10日に行われたなすしおばらまなび博覧会。昔あそびやアウトドア体験ができる子どもフェスタやALT English Festival、気象予報士らを招いた講演会、化石探し体験など、さまざまなイベントが同時開催されました。また、会場には市内の小中学生が作った絵画や工作が一堂に展示され、多くの親子連れでにぎわいました。



1 おっかなびっくり、生きものと触れ合おう 2 子どもたちの力作が並ぶ作品展 3 ボーイスカウトによる火おこし体験。竹ひごの焼き切れる早さを競う 4 緊張した面持ちで乗馬体験 5 保存会の皆さんによる豪快な餅つき



テーマは森のクリスマス ～三島地区自然体験塾～

11月16日三島神社で行われた自然体験塾。子どもと地域の大人が一緒になって楽しい時間を過ごそうと17年前から始まったもの。71回目となった今回も、「つくる」「あそぶ」「たべる」の3つのテーマで開催され、73人が参加しました。「つくる」では、木の実や枝などを使ったクリスマスリースなどを制作。小さい子どもでは作業が難しい部分は、中学生や大人が手伝う光景もみられ、素敵な作品が出来上がりました。



立派なお芋がとれたよ！ ～波立小 芋掘り～

11月13日に波立小で行われた芋掘り。縦割り班に分かれて、全校児童112人が参加しました。先生の合図で一斉にスタートすると、大きく実り、深く根を張った芋に悪戦苦闘する子どもたち。しかし、班ごとにスコップをうまく使って、協力しながらあっという間に掘り終えてしまいました。5年生の増子湧哉さんは、「30cmを超える大きな芋がとれた。おうちで天ぷらにして食べたい！」と嬉しそうに話してくれました。



みんなの夢をのせて ～パークヨガ&パプリカ～

市ブランドメッセージ「エールなすしおばら～夢が動き出すまち～」のPRの一環として、11月9日に旧青木家那須別邸前の広場で行われたヨガ&パプリカイベント。この日は多くの親子連れが集まり、ヨガで自然の素晴らしさを感じたり、パプリカダンスを踊ったりしました。イベントの最後には、パプリカのテーマ「明日に種をまこう」にちなみ、夢を書いた紙と花の種を付けたカラフルな風船を飛ばし、大盛況のうちに幕を閉じました。



季節の移ろいを感じながら力走 ～第14回那須塩原ハーフマラソン～

本市の秋の風物詩となっている那須塩原ハーフマラソン。14回目を迎えた今年は、ハーフのほか、5km、2km、1.5km、1kmの全種目合計で1,500人のランナーが完走を果たしました。本市出身でゲストランナーの渋谷陽子選手は「地元開催で知り合いも多く、気の抜けないレースだった。台風19号の影響が県内でも出ているのでマラソンを通じて応援していきたい」と地元への思いと今後の抱負を語ってくれました。



お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。

◆ちっちゃな自然に出てくるカエルや昆虫が苦手です。もうずっとやってきたので別のテーマでも良いのではないのでしょうか？ 例えば、那須塩原市の牛乳はこうやってここに運ばれてくるとか、牛飼いの人や米・野菜農家などを取り上げて、こんな野菜も作ってるよとか、生産者みつけたとか、ボランティアでこんなことしてる人たちみつけたとかに変えてほしいです。

A・Tさん(東原)30代女性

◆中学1年だった第1回開催以来、25年ぶりに巻狩まつりに参加しました。風土の空気を懐か

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか？(複数可)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 表紙 | 2. 特集 |
| 3. 行政 info | 4. タウントピックス |
| 5. 子育て連絡帳 | 6. チャイルドトピックス |
| 7. 健康だより | 8. 図書館へ行こう！ |
| 9. お便りBOX | 10. なすしおばら珍百景 |
| 11. ちっちゃな自然 | 12. 編集後記 |
| 13. げんきびと | 14. ものづくり若人 |
| 15. 私のまちの近い遺産 | |

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題や記事などをお書きください。

募集中

お便りBOX



皆さんの声を紙面で紹介します

皆さんからいただいたお便りを紙面で紹介していきます。広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題などを投稿してください。



※応募ははがきかQRコードから。

なすしおばら **珍**百景

あなたの"珍"がまちの魅力に？

あなたの身の回りの"珍"な光景、出来事、思い出などの写真を募集します。その1枚が新たな魅力の発見につながるかも。

※応募は次ページのQRコードを参照してください。

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。



図書館へ行こう！

図書館は年内は12月30日(月)まで、年明けは1月4日(土)から開館します。

NEW!

『世界一美しい星空の教科書』



著：大平 貴之 宝島社
夜空を魅了する無数の星たち。この本はたくさんの写真を用いて星について説明しています。星座の話もあります。冬の澄んだ星空をあなたも見上げてみませんか？
自分の誕生星座を探してみよう！

『「作家」と「魔女」の集まっちゃった思い出』



著：角野栄子 KADOKAWA
喜びも悲しみも、人に力を与えてくれる。「魔女の宅急便」など日常の魔法に満ちた物語を書き続けてきた著者による、優しさとユーモアにあふれたエッセイ集。
物語の力を信じて

『さかさまたんけんたい』



作：すずき みほ 偕成社
足の間から、さかさまに家じゅうをのぞいてみたら…あれれ、いつもとちがうものが見えたよ。部屋にかたつむり、庭にプリン？面白くて不思議なもの、いっぱい探してみよう！
見方をかえたら大はっけん！

『生きているシーラカンスに会いたい!』



著：岩田雅光 新日本出版社
謎に包まれた魚、シーラカンス。150mもの深海にすむため、その姿はめったに見られません。「生きた化石」とも呼ばれるこの魚に会うため著者ははるばるアフリカへ…。
福島にある実物標本、私も見に行こう一つ。

黒磯図書館

①子どもバルーン教室

▶とき 1月25日(土) 午前11時～正午
▶ところ 黒磯図書館 ▶対象 親子(子どものみ場合は小学生以上) ▶参加費 無料 ▶定員 20人(定員になり次第締め切り) ▶申込開始日 12月20日(金)

②図書館の裏側ガイドツアー

▶とき 1月26日(日) ①午前10時～、②午後3時～
▶ところ 黒磯図書館 ▶参加費 無料
▶定員 各回10人(定員になり次第締め切り)
▶申込開始日 12月20日(金) ▶問い合わせ 黒磯図書館

西那須野図書館

わくわく工作会

「クリスマスプレゼントを届けよう！」

お菓子の空き箱や色紙でおもちゃを作ってあそぼう！
▶とき 12月22日(日)
①午前10時～、②午前11時～
▶ところ 西那須野図書館
▶対象 幼児・小学校低学年
▶参加費 無料 ▶定員 各回5人(定員になり次第締め切り)
▶問い合わせ 西那須野図書館

塩原図書館

おはなし会と工作会

「クリスマスのかざり」

ハサミを使った作業はないので小さな子でも安心です。
▶とき 12月21日(土)
午前10時30分～11時
▶ところ 塩原図書館
▶対象 幼児・小学生 ▶参加費 無料
▶定員 15人(定員になり次第締め切り)
▶問い合わせ 塩原図書館

ちょこっとコラム

今までの黒磯図書館利用者で印象的な人をちょっと紹介。70代男性が図書館に来て「新たに江戸時代の一次資料が発見され、今までの通説がひっくり返るかも。昨日史談会で仲間とその資料について議論したが、全く反論できなかつた。勉強し直さなきゃいけない」。その後、約4時間も資料を読みあさり、私に説明してくれました。いや、さすがです。私が70歳になっても、あのように勉強し続けられるかな。こんな素敵な利用者があることがこの図書館の自慢です。



▲バックナンバーはこちら

マリブルーの輝き
～箒川の緑色凝灰岩～

緑色凝灰岩って？

新第三紀中新世前期から中期の火山噴出岩の堆積物の総称。青緑色の軽石を多く含む。塩原では、緑色凝灰岩からなる地層(福渡層)の厚さは、500mを超える。



緑色凝灰岩



青く澄んだ箒川 撮影日:2019.10.20 撮影場所:塩原福渡

珍百景
なすしおばら

あなたの"珍"を募集中

＜応募方法＞

方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

雫の中にハート♡



投稿者 joker10403さん(40代男性 錦町)
撮影場所 錦町(撮影日 2019.9)

朝の散歩中に撮影した雫です。雫の中にハートが見えたのでビックリしました。

今年の秋は例年になく豪雨に見舞われました。台風が過ぎ去った後に塩原の渓谷を訪れると、大雨で箒川の河床に着いていた藻類やコケ類が洗い流されて緑色凝灰岩の岩肌があらわになり、透き通るようなマリブルーに輝いていました。
今から約1400万年前。栃木県は、八溝山地と足尾山地をのぞき、一帯が海に覆われていました。当時は海底にあった火山の活動が活発で、火口から噴出した火山灰などが堆積し凝灰岩がつくられました。これらは火山の熱により変質し、緑色を帯びることから、別名「グリーンタフ」と呼ばれています。写真の中央奥に見える三角にとがった天狗岩やその手前にある野立岩も同じ凝灰岩でできています。この時代の緑色凝灰岩は、東日本の日本海側を中心に広く分布しており、代表的なものでは宇都宮市の大谷石が有名です。
この凝灰岩を含む地層の中には、まれに海にすむ魚や二枚貝などの化石が含まれていることがあります。海底に堆積した地層が長い年月をかけて大きく隆起し、現在は塩原の山地の一部を形づくっているのです。
マリブルーに染まる箒川は、渓谷の美しさを一層引き立て、塩原の自然の素晴らしさを感じさせてくれました。

参考文献：那須塩原市那須野が原博物館編「塩原の自然」2012年

じゅんじ

編集後記

今回の特集で話を伺ったある人の言葉。「人は必ず歳をとる。今、高齢者のためにやっていることは、将来の歳をとった自分に返ってくる。だから、若い人には将来の自分への貸しだと思ってやってほしい。そうすれば自分にもプラスになる」と。とても印象的でした。決して1人では生きていけない世の中だからこそ、地域でそしてみんなで支え合うことが、「将来の自分への貸し」だと思ふと、たくさんの人が、少しでもいいから地域に関わっていただければいいなと思いました。(大貫)

早いものでもう12月。広報誌の発行は日々締め切りを追われているので、本当に時間が経つのがあっという間です。元号が「令和」になったのも遙か昔のようで、最初は何となく違和感があった「令和」も、いつの間にかすっかり定着しました。来年はいよいよ2020年で、東京五輪が開催されます。本市でも、東京五輪の応援ソング「パプリカ」を踊るPR動画が先日完成しました。子どもたちを始め、多くの市民のみなさんが登場しています(実は、私もこっそり画面の隅に入らせて頂いています)。ぜひ一度ご覧ください。(平石)

行政情報アプリ「広報紙」が「マチイロ」としてリニューアル!
マチを好きになるアプリ
マチイロ
自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん!

1 役立つ行政情報を見逃さない!
2 自分に合わせた情報が届く!
3 いろいろなマチの魅力をお届け!

ダウンロードはこちらから
App Store
Google Play
※「広報紙」をご利用の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要があります。
※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。
※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。
マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで

3 2 5 8 5 0 1

お手数ですが
63円切手を
貼ってください

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所
那須塩原市
フリガナ
お名前
電話番号
年齢
性別
歳
男・女



高林小学校のヒイラギ(高林483)

私のまちの
近い
世界遺産

▶ 問い合わせ
 函生涯学習課
 ☎0287(37)5419

Topic

花言葉は
「先見の明」や「不滅の輝き」

ヒイラギは、昔から邪気を払うとされていて、庭に植えたり、節分にはヒイラギの枝にイワシの頭を刺して門口に立てたりします。このおばあちゃんヒイラギも高林小学校の校庭で、今もなお児童と小学校を守ってくれているのかもしれないね。



葉が丸くなった様子

人も木も成長すると…。
高林小学校のヒイラギ

クリスマスといえばサンタクロースとプレゼント…それから、ギザギザの緑の葉っぱと小さな赤い実の「ヒイラギ(柊)」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。今回は、市内にあるそんな文化財「ヒイラギ」について紹介します。

ヒイラギという木の名前には、諸説ありますが、葉のトゲに触れるとひりひりと痛むことから「ヒリヒリ痛む」という意味の古語「疼く」に由来しているそうです。

また、このヒイラギは、高林小学校の敷地内に立っており、小学校の記録では明治18年に新築の記念樹として植えられたことが記されています。

推定樹齢は150〜200年で、市内でもこれだけの老木は珍しいとされています。

この木は、雌株であるため、とても長生きなおばあちゃんヒイラギです。

ヒイラギということになります。また、これだけの樹齢を経て、ヒイラギの特徴であるギザギザ(鋭い鋸歯)がほとんどありません。

人も年をとると、角が取れて丸くなると思いますが、人も木も同じなのかもしれません。ちなみに、隣の大田原市には、推定樹齢700年と言われる「片田のヒイラギ(県指定文化財)」があるそうです。

まだ見たことはありませんが、700年も経つとその姿はどうなっているのか…。興味深いですね。